

第46回熊本県PTA研究大会 玉名郡大会

2019.11.16



熊本県PTA連合会

熊本県PTA新聞

熊本県PTA連合会
www.kumamoto-pta.com
〒860-0842 熊本市中心区南千反畑町3-7
熊本県総合福祉センター4F
TEL(096)354-5919
FAX(096)354-5913
✉ info@kumamoto-pta.com

●発行人 村崎 一英
●単位PTA数 354
●発行部数 73,200部

印刷 株式会社キャップ
TEL(096)362-3333
制作 ワタナベデザイン
TEL(0969)22-1089

監修 熊本県人権教育研究協議会

子どもたちの未来へと繋がる 親としての学び合い



大会会長
熊本県PTA連合会 会長 村崎 一英

令和となり初めての県PTA大会「第46回熊本県PTA研究大会玉名郡大会」へ、県内各地より多くの会員の皆様にご参加をいただきありがとうございます。全体会や各分科会を開催した三つの会場とも、参加者の皆様方の「親としての学び」に向き合う姿勢と、玉名郡PTA連合会の皆様の温かいおもてなしやスムーズな大会運営により、素晴らしい学びの場となりました。

午前中の各分科会では四つのテーマに沿って講演が行われ、子どもたちの現状を知り理解を深め、これから親として、PTAや社会としてどのように向き合っていく必要があるか学んでいただくことが出来ました。

講演いただき、どのような状況においてもあきらめず挑戦し続けることの大切さを改めて確認し合い、これから未来を切り開いて行く私たちの子どもたちへと伝え、育んで行くことが親としての責任であることを皆様と共有することが出来たかと存じます。

スローガン
翔けだそう
子どもたちの未来へ
一走りだそうPTA
一創りだそう地域の和
一奏でよう親子の絆



玉名郡大会実行委員長
玉名郡PTA連合会
会長 西田 恵介

第46回熊本県PTA研究大会玉名郡大会に1600名以上のご参加をいただき、感謝申し上げます。

この大会は、食育、特別支援教育、家庭教育、情報モラルをテーマに3会場で開催し、全体会においては、2会場ヘモニターによる配信を行い開催しました。アトラクションでは中学校吹奏楽部の演奏や南関町出身の歌手ハルカハミングバードさんによる迫力ある歌を披露していただきました。記念講演では元スピードスケート選手の岡崎朋美様をお迎えし、どんな状況になってもあきらめず挑戦し続けることが大切であるという講話は、参加された皆様に伝わったことと思います。

全体会では、開会行事にて、本大会に花を添えていただくとともに、日頃から子どもたちや私たちPTAを支えてくださっている多くのご来賓の方々や、長年活動を共にしてきた大切な仲間たちへ心からの感謝を伝えることが出来ました。記念講演では、元スピードスケート選手の岡崎朋美様にご

本大会で学び得ていただいたことを、各単位PTAの活動や、それぞれの家庭での子育てにおいて役立てていただけますことを祈念申し上げますとともに、アトラクションで素晴らしい演奏をいただきました菊水中学校、玉東中学校吹奏楽部の皆さん、ハルカハミングバードさん、ご理解ご協力いただきました皆様の方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

玉名郡には大きな会場がなく、映像配信による全体会の開催を初めて試みました。何度も検討し、実施いたしました。玉東会場へ本来予定していた画質での映像が配信できませんでした。参加者の皆様にご迷惑をお掛けし大変申し訳ございませんでした。最後になりましたが、実行委員会では素晴らしい大会になることと、参加者へのおもてなしを準備を進めてきました。何度も会議や準備を重ね進めていく中、一つのチームとなったことは、大きな成果となりました。ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

玉名郡大会閉会式でPRをおこなった宇城エリアPTAのみなさん



全体会が行われた南関中学校体育館

来賓あいさつ



県議会議員 内野幸喜様
県教育総務局長 野尾晴一郎様
南関町長 佐藤安彦様



受賞後にあいさつをされた石塚賢宏様
社会教育功労表彰を受けた宮崎征二様



全体会アトラクション 南関町出身のシンガー ハルカハミングバード様



記念講演 元スピードスケート選手 岡崎朋美様



南関中学校ランチルーム会場の様子

準備を進めてきました。何度も会議や準備を重ね進めていく中、一つのチームとなったことは、大きな成果となりました。ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。



玉名郡大会閉会式でPRをおこなった宇城エリアPTAのみなさん

第47回熊本県PTA研究大会
2021年11月開催
宇城大会

次期開催のご案内

宇城地区は小中32校で構成され、ほぼ熊本県の中央に位置します。東西に細長く、西は有明海や八代海に面し、東は九州脊梁山地につながる、自然豊かで大型商業施設もあっても住みやすい地域です。豊かな子どもたちの未来(ゆめ)と、楽しいPTA活動を目指し2021年の大会に向けて準備を進めて参ります。宇城大会で皆さまとお逢いできることを楽しみにしています。



玉名郡大会

大会スローガン

ちの未来へ

地域の和 一奏でよう親子の絆



南関中学校体育館・南関中学校ランチルーム・
和水町スカイドーム2000・玉東町民体育館

TAMANA
4会場
スナップフォト

全体会

記念講演

南関中学校体育館



どこまでも挑戦

講師 元スピードスケート選手
岡崎 朋美様

会場責任者 奈原 貴

報告



八代市立第一中学校PTA会長
光瀬 純子

県P玉名郡大会、全体会に参加しました。アトラクションでは、地元南関町出身のハルカハミングバードさんの凱旋ライブ。透き通ったきれいな歌声が体育館全体に響き渡りました。「いつまでも聴いていたい」と思いました。

記念講演は、元スピードスケート選手の岡崎朋美さんが『どこまでも挑戦』という題目で講演をされました。初めて生で見る岡崎さんは私より1つ上なのに、断然若い。『朋美スマイル』は健在でした。
オリンピックという、4年に1度の大会で5回の冬季オリンピック出場！ホント凄いです。決して順風満帆ではなかったのに、どんな状況でも自分自身に限りを作らず最後まで諦めず挑戦し続ける姿勢で乗り越えてくれたからと話されました。目標があるからこそできることですよ。やはり目標を持つことで、諦めないという気持ちにつながるんだと思いました。

第1分科会

テーマ 食育

南関中学校体育館



子育ての最終目標

「食から考えるつながりと自立」

講師 山都のやまの会
会長 下田 美鈴様

会場責任者 東 利廣

報告



運営責任者
総務委員長
米田 直樹

第1分科会では、山都のやまの会の会長でいらっしゃる、下田美鈴様を講師にお招きしてご講演頂きました。

講師から、「親として、どのような子どもに育ってもらいたいと考えてますか?」と問いかけられ、アンケート結果をもとに、「優しい人、幸せになって欲しいと思う保護者が多い中で『その思いや目標に向かって日々どのように向き合っているのか、車目的地向かう際、目的地を目指していてもそのルート(道のり)を意識していないのと同じではないか?』と、子どもたちへの向き合い方や接し方について考えさせられました。また、「子どもの未来は自分(親)の言葉の積み重ねである。」ご自身の体験をふまえて話された言葉は、多くの参加者の心に響いたのではないかと思います。子どもたちに出来る事は何かを考えるだけでなく、行動に移す事や、食を通じた愛情の伝え方など、多くの事を学ぶ機会となりました。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様、本大会を支えて頂きました玉名郡PTA連合会の皆様に深く感謝申し上げます。

第2分科会

テーマ 特別支援教育

南関中学校ランチルーム



困った子どもではなく 困っている子どもへ

「背景に迫りながら私たちにできること」

講師 子ども支援センターあまぎやま
センター長 坂口 明夫様

会場責任者 古郷 貴之

報告



運営責任者
教養委員長
山口 里美

特別支援教育について、子ども支援センターあまぎやまセンター長の坂口明夫様に講演を頂きました。

講師の坂口様は、ご自分の生い立ち、経験を活かして今の役割、仕事に就いておられます。
困った行動を起こしてしまう子どもは、本人だけでなくその保護者も困った状況にある事が多く、家庭・家庭を含めて社会的援助が必要だとされています。
どんな子どもも一人ひとりとらえ、自由に感情表出できる環境を整え、ありのままを受け止めます。こちらの価値観を押し付けず、個人の自己決定を促し、尊重する事が大切だということです。
大人が決めたレールの上を走らせるのではなく、いくつかの選択肢を示し、メリット・デメリットを伝えて、進む道を決定するのは子ども本人です。
問題に直面した時に自己解決できるようにサポートするのが、周りの大人、私たちにできることではないでしょうか。

今までの子どもとの関係を振り返り、今後の関わり方を改めて考える機会となりました。

第46回熊本県PTA研究大会

翔けだそう
子どもたち

一 走りだそうPTA 一 創りだそう



第3分科会 テーマ 家庭教育 和木町 スカイドーム2000



講師 菊陽町社会福祉協議会 地域支援係 吉野 由美様
子育てに
マニュアルなし

会場責任者 亀崎 清貴

報告 運営責任者 家庭教育委員長 眞田 洋子

参加者の声 玉名郡三加和町立三加和小学校PTA 中村 淳児

第3分科会では「子育てにマニュアルなし」をテーマに吉野由美さんをお迎えし参加者の皆さんと一体となり、楽しい子育てについて講演をして頂きました。虐待、ネグレクト等の情報が多い現代、私たち保護者はどのように子どもと向き合い、親子の絆を作り出していくのか、という事を振り返らせてもらったひとときだったと思います。吉野さんの講演では、「子育ては実験！実験だから失敗もします。失敗したらまたやり直せばいいんです。」と面白い発想で参加者の皆さんの心を掴まれました。吉野さんは最後まであえて「子育てはこうしなさい」とは言われませんでした。保護者の皆さんに自分でも我が家の作戦を練り、楽しく子育てをしてほしいという思いがあったからです。私たち保護者は仕事、家事、育児に毎日奮闘しています。今回の講演の中で、多くの参加者の皆さんが子育てについてまた新たな戦略を練られたことと思います。子どもも十人十色でたくさん可能性をもっています。私たちはこれからもその可能性を伸ばしていかなくてはなりません。最後に、玉名郡の役員の方々に、当日までの大会に向けての取り組みに感謝いたします。ありがとうございました。

第46回熊本県PTA研究大会玉名郡大会第3分科会では、和木町を舞台に繰り広げられた「戦国肥後国衆一揆」という和仁軍と豊臣軍の戦いの様子を戦国武者に扮した方々が再現するオープニングセレモニーで幕を開けました。第3分科会は、「家庭教育」をテーマに吉野由美様による「子育てにマニュアルなし」の演題で、熊本弁を交えた子育ての実体験を絡めて話された講演では、親子の絆に焦点をあてたおはなしが印象に残りました。また、会場内から笑い声や感動で涙する姿が見受けられ、皆さんたくさんの元気と勇気をもらい、今後の子育てを考える良い機会と貴重な時間になりました。家庭教育は全ての出発点であり、和木町出身の金栗四三先生のような不撓不屈の精神を受け継いだ子どもたちを育てていきたいと思います。最後に、今回の研究大会にご尽力された関係者の皆様方へこのような学ぶ機会を与えていただき深く感謝申し上げます。

第4分科会 テーマ 情報モラル 玉東町民体育館



講師 熊本学園大学教授 堤 豊様
スマホを与えたときから
生まれる保護者の責任
（自分の子どもは自分で守る）

会場責任者 金川 晃

報告 運営責任者 広報委員長 藤井 千秋

参加者の声 八代市立郡築小学校PTA会長 三栗野啓吉

第4分科会では県サイバーセキュリティ推進協議会会長、堤豊様による情報モラルについての講演を頂きました。近年SNSでの犯罪が増加し、小学生のスマホ所持率も高まってきています。スマホは一瞬にして情報を入手でき、世界中の人々と友達になれる魔法の機械ですが、私たち保護者には、危険性や使用方法を子どもに教え、より安全で正しい使い方が出来るようにする責任があります。また、子どもが傷ついたり、誰かを傷つけたりする事の無いように上手にスマホを安心して使用できるように親子で共に考えなければなりません。既に学校ではタブレットの使用、文科省では校内への携帯持込の是非を検討しています。私たちには、時代のニーズに合わせ、子どもを守るためにやるべき事を理解し、子どもたちにスマホに関する最低限のリテラシーを身につけさせる事が求められています。玉東会場は少しひんやりとした空気の中、450名の皆様真剣な表情で耳を傾けていらっしやいました。今後、各ご家庭にて活かされることを祈念致します。

スマホを取り巻く環境の中でスマホ機能の特徴である「SNS」「オンラインゲーム」「Pay」「動画」という4つのカテゴリーの中で、子どもたちへのリスクについて学ぶことが出来ました。今の子どもたちは、私たちの時代と違いスマホが既に身近にあります。しかも年々進化し覚えるのも大変です。私自身、スマホの機能を使いこなせていない部分も多いです。講演で「子どもに（スマホの）使い方をお教えますか？」と問いかけられました。自分のスマホを貸す時、「使っている時間は一日〇〇分だよ」とは伝えても、その使用についてはしっかり教えたことは、ほぼありません。重要なのはまず与える前に、子どもたちに使用方法、使用に伴うリスクをしっかりと教えること（どこまでが正解かわからないですけど）。そして教えるためには、我々がスマホに関心を持ち勉強しておくことが大切だと感じました。PTAも情報共有には主にスマホを使用します。無用なSNS・動画の拡散にはお互い注意しましょう。

熊本県PTA研究大会玉名郡大会を終えて



玉名郡大会副実行委員長 西川 隆史

今大会では、各会場の収容人数の問題、会場間の距離の問題等、いろんな課題がある中で、会員数も少ない小さな玉名郡でもできる大会、玉名郡でしかできない大会とは何かを模索し、映像配信によるコンパクトな大会はどうかという一つの案が出ました。当初は経費や準備等、具体的な予想ができない不安要素の方が大きく占める中で話し合いでしたが、何度も会議を重ねる度に現実味を帯び、不安は期待とやる気が変わって行きました。



玉名郡大会副実行委員長 亀崎 清貴

今から1年半前。本大会の実行委員に推挙された時、私に務まるだろうかと不安ばかり抱えていました。玉名郡が連携し、開催する今回の大会は46回を数える大会の中で初めてとなるものでした。最初は勝手も分からず、言い合いいにもなりましたが、それは皆が「玉名郡がひとつとなり、この大会を成功させる。」という強い意志と県内各地から来られる方々に「おもてなしの心で相手の気持ちになつて考え行動する。」という意識の中で生じた前向きな対立だったと感じます。そのような中で生まれたのが、今大会より初めて導入した全体会の映像配信でした。従来の一会場に集合し実施するやり方にも相当な時間をかけ

て県PT連と実行委員会で協議を重ねましたが、時間等々の懸念をクリアにし、玉名郡全体で開催することに重きを置いた結果、映像配信という手法で移動せずに開催することを提案、承認いただきました。全体会の会場で実物を見たいという方々も多くいらっしやうとは思いますが、今後も本大会が継続し、県内各地で開催される際の一助になれば幸いです。最後に、本大会を無事に終えることが出来たのも玉名郡の支えと、ご協力を頂きました全ての皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。今後本大会を通して県内のPTA活動がより良いものになりますことを祈念しております。



第67回日本PTA全国研究大会・兵庫大会

報告

大会スローガ

つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ

地域とともに育む力 兵庫から

2019年8月23日(金)〜24日(土)

記念講演

ワールド記念ホール
講演者 メンタリスト Daigo 様



会長
村崎 一英

全体会は、元タカラジネスが活躍されている「宝塚ローズ倶楽部」による歓迎アトラクションで幕が開きました。その華やかな姿と歌や踊りは、8,000名を超える参加者を魅了し、兵庫の方々のおもてなしの気持ちを表す素晴らしいものでした。

基調講演では、「子育ては、心理学でラクになる」と題し、メンタリストDaigoさんによる講演が行われました。小学校1年生から中学校2年生までいじめにあっていたことを話され、母親の悪口を言われた際に起こした過激なある行動によつていじめが無くなったことをきっかけに、今までの自分の逆の姿を実行していくことで自分を変えて行ったことや、人の心を創りたくて心理学を学んだことなど、興味深い内容の話ばかりでした。特に心に残っているのが、子どもの持っている個性の半分は遺伝によるもので、親の育て方で変わるものではないということ。そして、残りの半分は友達との関わりによつて決まってくる、というお話でした。親としての心境は複雑なものです。多くの友達と過ごす幼保小中高の学校生活を豊かなものとするのが、子どもたちの豊かな個性を育むことへと繋がるのではないかと希望を持つことができました。様々な実践と経験、研究データを基にしたお話は説得力があり、やらなくていいことをなくしクリエイティブにすることで、子育てやPTAの活動も楽になるという私たちへのアドバイスは、これから大切に実践へと繋げていく必要があると感じました。

来年度「九州アソックPTA研究大会くまもと大会」を控えた私たちにとって、お手本となる素晴らしい全体会でした。

第7分科会 環境教育

朝来市和田山ジュビターホール
講演者 俳優 中本 賢様



副会長
園田 恭子

神戸市内から高速バスで3時間ほど離れた朝来市で開催の第7分科会「環境教育」に参加してきました。

基調講演は俳優の中本賢さん。俳優の傍ら自宅近くを流れる多摩川で我が子と遊びながら気づいた小さな生き物たちの変化を長年観察し、川遊びを通じて学校や子どもそれぞれ地域と繋がっていく楽しさを発信されています。

下水道が整備されていなかったため生活排水で泡立ち、川底にはヘドロが堆積していた50年前の多摩川。下水道の普及が進むにつれ生き物の姿が見え始め、最近ではたくさんのがつが上ってくるまでに再生しています。流域の小学校で2003年からはじめて総合学習「ガサガサ探検隊」では、現在も指導者として活躍されています。

第6分科会 防災教育

姫路市市民会館大ホール
講演者 国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長 林 春男様



事務局長
中村 貞一

「いのちを守る防災教育」家庭・学校・地域 いま私たちにできること」をテーマに、防災科学技術研究所林春男先生から、防災教育とは家庭や学校・地域社会で誰もが災害などの苦難を乗り越える力

「生きる力」を向上させることであると基調提案がありました。阪神淡路大震災を経験した姫路市では、災害等あらゆるハザードを予測し、命を守ることを最優先に予防や対応の要領を定めた学校園防災マニュアルが作成され、現在も活用されています。

地元小中学生による防災活動の発表後、阪神淡路大震災や東日本大震災の経験者をパネリストに交えたディスカッションでは、被災した時の苦悩やその後の具体的な実践など、前向きな話を多く聞くことができました。各家庭で「もしものときのいつも」を想定し、緊急事態の際、人としてできることから始めることを提案され、参加者からは明るい未来が広がるような防災教育に期待すると意見も出され、熊本地震を経験した者として多くの学びがありました。

第5分科会 広報活動

兵庫県立淡路夢舞台国際会議場メインホール
講演者 神戸市立高羽小学校教諭 白井 真様



副会長
田浦 かおり

基調講演では、阪神淡路大震災の経験から生まれた歌「しあわせ運べるように」が会場に流れました。作られた白井先生や遺族の方々の、育った町の無惨に変わり果てた姿や、助けたくても助けられなかった愛する家族への思いが歌を通して伝わり、胸が締め付けられるようでした。

実践発表は洲本第3小学校PTAの広報活動でした。発表者の城田さんは、広報紙を手にとつてもらうための工夫として、次の3点をあげておられます。

- ①従来の一色刷りB5版からカラーのA4版へ変更。
 - ②委員の負担軽減のため、グループラインでの会議を数回実施。
 - ③子どもが書いた、先生の似顔絵コンテストの作品を表紙に掲載するなど、子どもたちの広報紙への参加。
- パワーポイントで見せていただいた広報紙は、分かりやすく、読むのが楽しくなるようなものでした。PTAの課題や活動状況を学校・家庭・地域に伝え、それぞれを繋ぐ大事な役割を果たすために、「読みたくなる広報紙」を目指さなくてはと感じました。

特別第2分科会 文部科学省協力

明石市民会館大ホール
講演者 兵庫教育大学教職大学院教授・CSマイスター 小西 哲也様



副会長
岡崎 秋人

小西先生は、「これからの時代の学校、社会総掛かりの教育の実現をめざして」をテーマに「科学技術の進歩やグローバル化の進展など学校を取り巻く社会環境の変化は、子どもたちの健全な育成に新たな課題を投げかけている。人生100年時代到来を告げるCMや政府広報に子どもたちの未来の広がりや期待を寄せる反面、激動の時代を生き抜く力を身につけることができるか不安がよぎる。

これから子どもたちは100年近くを生きていく。その間に何度か大きな社会変化を経験する。どんな変化にも、くじけることなく乗り越える力とはどんな力か、その力が活かされるのは学校を離れて大人として生きる長い人生の過程。

大人として長い人生を豊かに生きるために必要な力を学校だけで保証できるだろうか。義務教育は人生の十分の一程度の短いもの。その間に教えられることには限界がある。多感で極めて吸収する力が大きい学齢期にこそ地域の大人が地域の学びとして総掛かりで子どもたちに関わる仕組みが必要だと考える。」とおっしゃいました。

第1分科会 家庭教育

東りいたみホール
講演者 教育サポーター・尼崎市教育委員 仲島 正教様



会計理事
佐伯 知彦

仲島先生は基調講演で、家庭教育が全ての教育の出発点という視点から、保護者としての私たちに必要な自信やこころの余裕、子どもへの教育に対する責任などを、コテコテの関西弁でしかも芸人なみの身振り手振りを駆使し笑いを交えてお話されました。

その内容は、こころの距離感、身体の距離感に比例するという事から、子どもへのちよとした声かけや目配りがお互いの距離を縮めてくれ、印象をかえてくれること。また、誰もが隠し持つ憂いに対し、寄り添ってくれる人を人は優しいと感じ、寄り添うことで一人じゃないという安心感を与えられること。日々の生活の中でも、子どもの失敗に、つい勢いで怒ってしまった「言い過ぎたかな」と反省するのも、親あるあるの一つであり、次に頑張れるように励ましたいけど、つい感情に負けてしまうのはよくある姿だという事などを、教室でのやりとりを交えた経験談からわかりやすく話してくださいました。

子育てに自信はなくても、こころは通じると信じ、愛情をこめて日々接してください。愛されていると感じる時に子どものこころが安定し、自己有用感や自尊心が高まるそうです。素直な愛情のやりとりが出来た時、お互いのこころがわかりあえて、「あ〜よかったなあなたがいて」とお互いに感じる、そんな親子の関係に改めて気付いた講演でした。



第64回日本PTA九州ブロック研究大会福岡県大会

【大会スローガ】

新しい時代を共に歩むPTA

「家庭・学校・地域がつながり、高めよう「親力」」

報告

2019年10月26日(土)～27日(日)

第3分科会

【広がる親力】

「学校・家庭・地域の要となる

PTA活動を目指して」

山鹿市立鹿北中学校PTA
会長 北原 和智



左から古川副会長、北原会長（中央）

全校生徒55名と山鹿市でも一番少ない生徒数の学校ですが、少ないからこそ皆で協力しあいながら行った活動事例を二つ紹介します。

一つ目は、「防災教育キャンプ」です。この活動は、生徒・保護者・職員・地域住民の120名程の人数で集中豪雨により避難し、ライフラインが機能していない状況で3泊4日を過ごすという設定での防災訓練でした。地域住民参加型の訓練を通して、直接地域の方々のふれあい、地域の安全を中学生が主体となり積極的に支えようとする意識を高めることができました。



二つ目は、「山鹿市の姉妹都市であるオーストラリアのクーマの中学生との交流です。この交流会ではクーマの生徒に日本の文化や自然に親しみ、楽しんでもらうように生徒たちが企画した内容に対して、PTAが協力し、地域の方々や保護者にも参加を呼びかけました。日本文化に触れてもらう活動や、川遊びをしてみようという体験を通して、直接交流できることの良さや鹿北の地域性や自然の魅力を改めて実感できる交流会となりました。

このように地域と学校を繋ぐ役割をPTAが担っており、活動を通して地域と生徒がふれあう事により、コミュニティの形成や様々な情報を直接やり取りできる環境づくりができています。広報活動としては、目新しい事は行っていませんが、子どもたちの意識の中にも確実に地域との繋がりの大切さが浸透してきています。今後も、家庭や地域の方々からしか学ぶことができないことを肌で感じさせていき、鹿北を愛し、鹿北のために行動できる子どもたちを育てて行くことを願っています。

第2分科会

【研修・啓発活動「気づく親力」



水俣市立水俣第二中PTA 副会長 森本 昭浩

福岡県大会第2分科会は「気軽に参加でき気づきを得られる研修・啓発活動」を討議題として、北九州市立花尾小学校から報告がありました。

花尾小学校では子どもたちと一緒に成長する「共育」を念頭において活動されており、ただ行事を行うのではなく「何故この行事を行うのか」という目的をもって取り組んでおられます。

毎月の理事会を学期に1回は地域の方々と交えて行っておられ、PTA役員と地域の方々とのコミュニケーションが取れ、地域と連携するPTA活動をスムーズに行うことができているそうです。その他に保護者だけでは得られない情報や意見をいただける理事会が開催できているとの事でした。

最近では個人情報保護等の理由で地域との連携がとりにくい状況になっており、私たち保護者が地域の方々と密に連携をとっていかなければ地域の繋がりが無くなってしまおうと思いました。

近年、子どもが巻き込まれる事件の防止策として、地域との連携で子どもたちを見守っていくという動きがメディア等でも報道されています。私たちの地域の自治会でも青少年健全育成委員会という組織を作り、今年度の見守り活動の一環として地域内で人に会う

た時、特に子どもたちには大人から挨拶や言葉を交わすという目標を立ててパトロール活動を行っております。

今回の九州ブロック研究大会の分科会に参加して地域との繋がりが重要なことを再確認出来たので、これからもPTA活動を通して地域との連携を図り、子どもたちを見守っていくと思えました。

第3分科会

【コミュニティ形成・広報活動「広がる親力」



球磨郡PTA連絡協議会 副会長 橋本 昭

福岡県大会の第3分科会は「固定概念に捉われない新しい広報活動」という討議題で、沖縄県石垣市の宮良小学校と熊本県山鹿市の鹿北中学校からの提言でした。

宮良小学校では、われら探検隊川下り、黒糖作り、夏祭り、運動会等の多くの年間行事が行われています。子どもたちの為にPTAはどのように携わり、どう取り組めばよいか、行事の意義等を広報誌『あかんぎ』を通して伝えていこうです。

また2年前からフェイスブックでPTAグループを立ち上げ、広報誌や公民館放送等と併用し、学校行事・地域行事を含めPTA会員や地域の方々への周知・参加も促しています。続いての鹿北中学校の提言は、防災教育キャンプと異文化交流の実践発表でした。PTAは、各行事の円滑な運営

はもとより、学校の課題解決のために依頼を受けた後、地域への協力を呼びかけ、地域と学校をつなぐ役割を担っているそうです。

過疎化に伴い、年々子どもたちとPTA会員数が減少している中、人が少ないからこそ皆で協力し合ってきた歴史や伝統を、今後も受け継いでいきたいと考えられています。

どちらの学校も新しい広報活動という点では、まだ活路を見出せていないようですが、地域とのつながりを大切にし、歴史ある行事や伝統文化の継承に努め、「郷土を愛する子どもを育てていくために、PTA活動の充実を図っていききたい。」とのことでした。

今回の発表での広報活動は、口伝え、ポスター、広報誌、SNS利用でしたが、まだまだアナログの重要性を感じました。これからは、アナログとデジタルをうまく融合させた、新しい広報活動が必要なのではないかと思えます。

第5分科会

【教育問題家庭教育「育てる親力」



荒尾市PTA連合会 会長 村上 武士

討議題は、「わたしが魅せる大人の姿。」討議の柱は、1、お手本となる大人の姿とは、2、大人も育つ家庭教育です。鹿児島市立石谷小学校PTA会長より「子供たちの心を穏やかに整えられる家庭環境づくり」家

庭教育を充実させるための取組」というタイトルで実践報告がありました。

平成25年度から5年間、毎年7・8月の2回実施された「心の天気図」についての内容で、取組方法は全ての子どもに「心の天気図」を配付し7日間記録させるといいます。心の様子を天気図に例え、その日の出来事や気持ちを一言記入します。保護者は子どもへの一言を記入し、話す時間が持てたかを記録、7日間の取り組みの感想を記入します。

子どもたちの心の状態が親子ともお互いに見え、話す時間が持て、子ども心に少しでも寄り添う事ができる取り組みだと思えました。

沖縄市立美東中学校PTA会長からは「祝賀そば」「土曜塾」等で生徒の成長を応援し親の成長は子の成長とともに」というタイトルで実践報告がありました。

「祝賀そば」は卒業式終了後に中庭で全校生徒、保護者、先生方へ1、200食を振る舞う一大イベントでPTA行事として20年以上も続いています。「土曜塾」は1年生から3年生を対象とし琉球大学の准教授と学生で運営されています。准教授の息子さんが入学されたことをきっかけに「何か学校に協力できないか」と考えられ始まり、11年間継続しています。

PTA活動に参加、参画する事こそが子どもたちのお手本になる姿の一つであると思え、提言されており、まさにその通りだと思えました。

すこやか子育て電話相談

子育てや家庭教育に取り組む保護者の皆さんの相談窓口として、「すこやか子育て電話相談」を開設しています！

日頃の悩みや、困っていること、心配なことは、一人で抱え込まず、気軽に御相談ください。

専門の相談員が、豊かな経験のもとに相談をお受けします。

実際に寄せられた相談から…

食事の時間もゲームをして困ります。
(5歳児の母)

夜遅くまでスマホを使って、朝起きれないんですが。
(中2男子生徒の母)

子供の友だち関係について、自信をもってアドバイスができません。
(小6男児の母)

気軽に相談してほしいモン！

すこやか子育て電話相談

ひとりで抱え込まないで「子育ての悩み」を話してみませんか？

096-383-6636

月曜日～金曜日 ▶ 17時～21時
土曜日 ▶ 13時～17時

その他の時間は、留守番電話でお受けします。
(日曜・祝日・年末年始と8月13日～15日を除く)

熊本県教育委員会

最近、友だちとけんかしたらしくて元気がありません。どうしたらいいですか。
(中1女子生徒の母)

小学校4年生の娘が、スマホがほしいと言っています。友だちがみんな持っていると言っているのですが、買ってあげたほうがいいのでしょうか。
(小4女児の母)

©2010 熊本県くまモン

「くまもと家庭教育支援条例」家庭の教育をみんなで応援！



家庭部会研修会のようす

2019年度 家庭部会

研修会に参加して

8月31日、熊本県総合福祉センターで、各エリア女性代表を対象に開催しました。熊本県社会教育課参事、服



家庭部会 平山 美紀



部正先生より「これからの子どもたちに求められる資質とPTA活動」と題し、現在の家庭環境や移行行く社会の変化、子どもたちに求められる新しい力についてご講話いただきました。学校だけではなく、PTAや地域の支えが子どもたちの育ちに重要であることを改めて感じました。ワークショップでは「子どもたちを地域総掛かりで育むためのPTA活動」をテーマに、4人1組で学校・地域・行政・子どもと一緒に取り組みたいことについて意見交換し、思いを共

有することができました。休憩のひとときにはお茶とお菓子でリラックスし参加者の皆さんの笑顔も見られ、結びに「ふくびき」の読み聞かせで会は終了しました。参加者のお一人からは、「父親で初めて参加したが、子どもの教育から自分自身の成長を含め、考えるよい機会になり、有意義な時間だった。」との感想をいただいています。この研修会で学んだことを、今後の活動に活かしていただければ嬉しいです。

熊本県PTA連合会
小・中学生総合保障制度(こども総合保険)のご案内
学校内外でケガをしたら…
自転車を運転していて、ケガをさせてしまったら…
2020年1月現在の内容です。

任意加入保険

小・中学生総合保障制度(こども総合保険)

お子さまを取り巻く様々な事故のリスクに対応します。
学校内外でのケガを補償します。

学校内外でのケガを補償します。

他人にケガを負わせたり他人のものを壊したりした場合に補償します。



階段で転んでケガをした。



他人にケガを負わせたり他人のものを壊したりした場合に補償します。

上記の他にも、病気補償・学校管理下動産補償・育英費用補償・被害事故補償など様々な補償でお子さまをお守りします。※補償内容、保険金額はプランにより異なります。

●団体割引制度により保険料は約27%割引

当制度は、PTA団体加入制度のため、約27%保険料が割引かれています。5種類のプランの中からお選びいただけます。

1年間の掛金1,950円～。(プラン・補償開始日により、掛金は異なります。)

加入件数/4,282件(2019年度)

※割引率について:このパンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。適用される割引率は前年度の加入者数、過去の損害率等に応じて決定します。次年度以降、割引率が変更となる場合がありますので予めご了承ください。

お申込み・お問合わせ

熊本県PTA連合会 小・中学生総合保障制度事務局

TEL:0120-228-553

受付時間:平日/午前9時～午後5時

〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2 興銀ビル9F 株式会社コーリン

<https://www.pta-corin.com/>

制度引受保険会社:AIG損害保険㈱、東京海上日動火災保険㈱、損害保険ジャパン日本興亜㈱、三井住友海上火災保険㈱
ご加入の際には、パンフレットおよび重要事項説明書を必ずお読み頂いた上でお申し込みください。

S-200323(2021-03)

(財)熊本県PTA教育振興財団 からの お知らせ

●PTA会長承認行事の対象となるのは

次のような場合であり、PTA活動として年間計画には入っていないが、PTA会長が教育活動としての妥当性や企画・運営等について安全性を確認したものです。

- 1) 学校管理下の部活動単位の活動で、学校管理下とならないような休業日の練習試合や冠大会への参加、合宿や親子交流会、卒業生お別れ会など
- 2) 学級や学年単位で、PTA活動や学校管理下とならないような休業日の校外活動や学習活動など
- 3) 地域の行事や活動に、部活動や学級・学年単位で、あるいは校長やPTA会長が参加者を募って参加するような場合
- 4) 年度当初のPTA活動年間計画にはないが、PTA会長が教育活動や児童生徒等の安全確保活動として必要性を認めたもの

●本年度の活動は3月31日までに!

PTA 共済の共済期間は、年度末(3月31日)までとなっています。本年度の学級や学年での活動は春休み中であっても、4月に入って開催される場合は共済の対象となりませんのでご注意ください。

●児童見守りや学校教育支援をPTAで

実施すると、参加者は安互コースの適用を受けることができます。地域の方々に参加なさる場合であっても、PTA活動の支援者として安互コースにご加入いただくことができます。ただし、これらの活動にはPTA会員が携わることが必要になります。次年度のPTA活動計画作成の際に、これらの活動の実施もご検討ください。

問い合わせ先: (財)熊本県PTA教育振興財団

〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町3-7 熊本県総合福祉センター4F

TEL:096-278-8811

2019年度委員会報告

参加してみたいと思っただけの紙面づくりを目指して



広報委員会
委員長
藤井 千秋

広報委員会は、熊本県PTA連合会の活動を皆さまにお伝えする大切な役割を担っています。見やすく、読みたいと感じて頂く紙面づくりを目指し、7月と3月の年間2回の発行に向けて原稿依頼として校正を行いました。日P研究大会や九P大会の原稿では講師の想いと執筆者の感想を、よりリアルに伝えるために何回もやり取りを行いました。また、熊本県

PTA研究大会玉名郡大会では第4分科会(玉東会場)で、情報モラルについての分科会を担当しました。スマホを子どもへ貸し与える時期や危険性を同時に教える大切さ、そしてSNSなどで人を傷つけたり、自分が傷つかないようにするために、保護者も共に学ぶ大切さについて考える機会を持ちました。この情報化社会では、日進月歩で進化し続けるスマホと上手に向き合う事が私たち

親にとつては必要だと考えます。しかし、どんなにネット社会が進んでもまだ、新聞としての広報紙面は必要です。ネットでの情報は自ら見ようと行動しないと情報は入ってきませんが、紙面はなんとなく手に取って文字が目飛び込んできます。手に取り、読みたいと思っただけで頂けると幸いです。発行にあたり沢山の皆さまに寄稿して頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

すべてのスタートは家庭教育から



家庭教育委員会
委員長
眞田 洋子

今年度の家庭教育委員会は、例年取り組んでいる「ふれあい読書研究会」「親子ふれあいデー活動」の委嘱式からスタートし、12月の中間報告会では各学校PTAならではの積極的な活動が報告され、実り多い会となりました。今年度は委嘱にあたって、建設的でたくさんのご意見・ご要望が寄せられました。来年度の活動にもしっかりと映できるようにしたいと考えます。

また、県P玉名郡大会では「家庭教育」をテーマに、親子の絆について吉野由美様に実体験をもとに、ユーモアたっぷりにお話ししていただき、会場は笑いあり、涙ありのとても活気にあふれた有意義な時間となりました。最後に、本年度の委員会活動にご理解とご協力をいただきました皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

学びの成果をみんなで共有しよう



教養委員会
委員長
西田 恵介

教養委員会では主に研究大会、研修会の企画、運営を行いました。PTA研究大会玉名郡大会においては第2分科会特別支援教育を担当しました。子どもたちの特性や成長段階の特徴について学び、家庭・学校・地域が連携・協働し何ができるかを考える機会になりました。また、単位PTAリーダー等研修会を2月29日(土)にグランメッセ熊本におい

て開催します。(2020年1月寄稿)講師によるPTA活動の大切さやコミュニケーションとリーダーシップについての講演、「親の学び」プログラムによる会長候補者の交流の場を通して、今後の活動の充実を図っていただきたいと考えております。最後に、各事業の運営に関わられた皆様、参加された皆様、各会員の皆様、ご協力いただきありがとうございました。

単位PTAを結ぶ架け橋として



総務委員会
委員長
米田 直樹

総務委員会では、主に熊本県PTA連合会の予算や事業計画の執行、規約改定や表彰に関する事、特に今年度は「ふれあい読書研究会」「親子ふれあいデー活動」における委嘱後の中間報告会時にお渡ししていた活動費を、単位PTAでの活動がしやすくなるように、委嘱時にお渡しできないか等について検討してまいりました。また、熊本県PTA研究大会玉名

郡大会では、第一分科会で「食育」をテーマに担当し、子どもたちの自立へ向けて親ができる事について、深く考える機会を持たたのではないかと感じています。最後になりますが、本年度も多くの会員の皆様にご協力頂きましたことに深く感謝申し上げます。一年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

編集後記

今号は、各種研究大会についての参加者の方の感想や、各エリアの単Pの取り組みなどについて、会員の皆様よりお寄せ頂いております。大会にご参加いただけなかった皆様にも、子育てのちょっとしたヒントや、単Pでの活動の参考となる情報を掲載しておりますので、

お役立ていただければ幸いです。最後にありますが、日頃より県P連への会員の皆様のご協力に感謝致しますと共に、各種大会にご参加、ご協力くださった皆様、寄稿してくださった皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

広報委員 田中大輔

第65回日本PTA九州ブロック研究大会

くまもと大会

分科会 期日: 令和2年10月10日(土)
会場: 熊本県内7会場

全体会 期日: 令和2年10月11日(日)
会場: グランメッセ熊本(上益城郡益城町)

主催: 九州ブロックPTA協議会
 主管: 熊本県PTA連合会・熊本市PTA協議会
 第65回日本PTA九州ブロック研究大会 くまもと大会実行委員会

後援: 文部科学省・公益社団法人日本PTA全国協議会・熊本県・熊本市
 (予定) 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本県小学校長会・熊本市小学校長会・熊本県中学校長会・熊本市中学校長会

「咲かせよう子どもたちの輝く未来を」

はな

～しあわせの家庭教育を、全ての子どもたちのために～

第65回 日本PTA九州ブロック研究大会

くまもと大会のシンボルマーク決定!!

昨年度末より、募集をしておりました上記大会のシンボルマークが、応募総数51点の中から最優秀賞として、熊本市立出水南中学校1年宮崎かりんさんの作品に決定いたしました。今後、九Pくまもと大会の様々な場面で使わせていただきます。応募していただいた皆様方ありがとうございました。

制作者
熊本市立出水南中学校
1年宮崎かりんさん

【制作者の思い】
英語で「KUMAMOTO」と書いた周りに熊本の自然の緑を取り入れ、そこから流れ出る熊本が誇る湧水を左上の水滴に表しました。そして、大きなカルデラを持つ阿蘇山を中央に入れ、堂々としたたずまいと、ゆうゆうと立ち上る煙で熊本の皆さんの力強い心を表現しました。そのほかにもOの字には親子の間わりを表現し、鳥が運んでくるPTAの組織名も取り入れ、熊本の魅力「自然・水・火の国」の3つと、この組織ならではの親子のつながりをこのシンボルに表しました。